大阪府感染症発生動向調査週報　（速報）

2018（平成 30）年 第 14 週（4 月 2 日～4 月 8 日）

今週のコメント
～感染性胃腸炎～　手洗い、排泄物の適正処理が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ　非流行期に」

第 14 週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は前週比 4.1%減の 1,639 例であった。報告数の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、水痘、突発性発しんの順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 5.0、1.7、0.4、0.4、0.4 である。

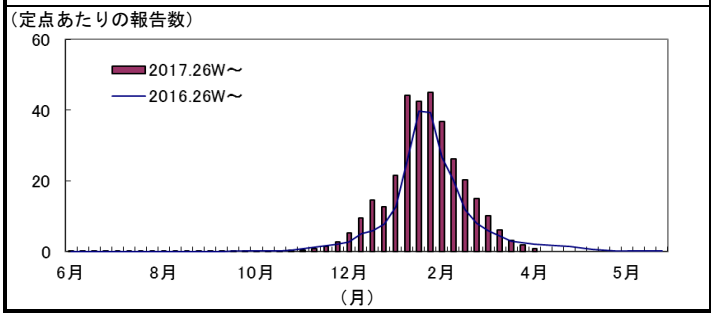
感染性胃腸炎は前週比 5%減の 974 例で、南河内 10.9、中河内 7.4、泉州 5.5、大阪市北部 5.1 の順であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 4%減の 329 例で、南河内 2.5、泉州 2.3、大阪市西部 2.0、豊能 1.9 であった。

RSウイルス感染症は 20%増の 84 例で、大阪市北部 1.2、中河内・大阪市西部 0.6、大阪市東部・泉州・南河内 0.5 である。水痘は 16%増の 80 例で、泉州 0.9 であった。

インフルエンザは 55%減の 260 例で、定点あたり報告数は 0.9 と 1.0 を下回って非流行期に入った。泉州 1.3、堺市・北河内 1.2、中河内 0.9 であった。

インフルエンザ



A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

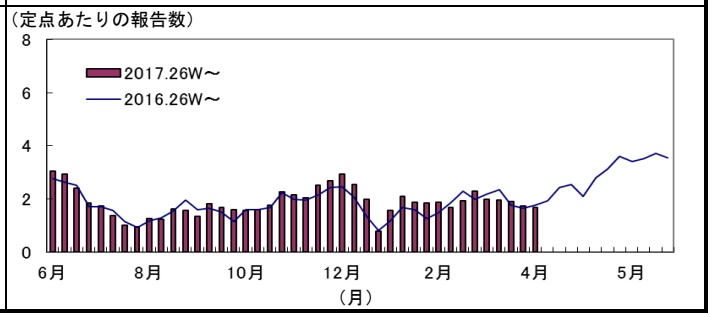


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向 （2018（平成 30)年　第 14 週　4 月 2 日−4 月 8 日）

第14週の順位	第13週の順位	感染症	2018 年 第 14 週の定点あたり報告数	前週比増減	2017 年 第 14 週の定点あたり報告数	2018 年　第 14 週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.0	5%減	5.1	1 歳_15%
2	2	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.7	4%減	1.8	5 歳_14%
3	4	RS ウイルス感染症	0.4	20%増	0.3	1 歳未満_55%
4	5	水痘	0.4	16%増	0.4	5 歳、10−14 歳_各 14%
5	3	突発性発しん	0.4	13%減	0.5	1 歳_49%
参考		インフルエンザ（インフルエンザ定点報告疾患）	0.9	55%減	2.1	20 歳以上_40%

第 14 週のコメント

～A 型肝炎～　海外へ渡航予定者は、ワクチンを接種しましょう

全数把握感染症

A 型肝炎

A 型肝炎は、A 型肝炎ウイルス感染による疾患である。大規模な集団発生はみられないが、汚染食材を介した感染事例や海外渡航者による輸入感染事例が報告されている。潜伏期は 2～6 週間であり、発熱、倦怠感などに続き、肝機能障害、食思不振、嘔吐、黄疸、肝腫大、灰白色便を認める。1～2 カ月の経過の後に自然回復するが、まれに劇症化することがある。ワクチン接種が有効とされ、接種後、抗体獲得率は、95%以上である。感染防御効果は数年以上続くと言われている。

感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)

感染症の話(国立感染症研究所)

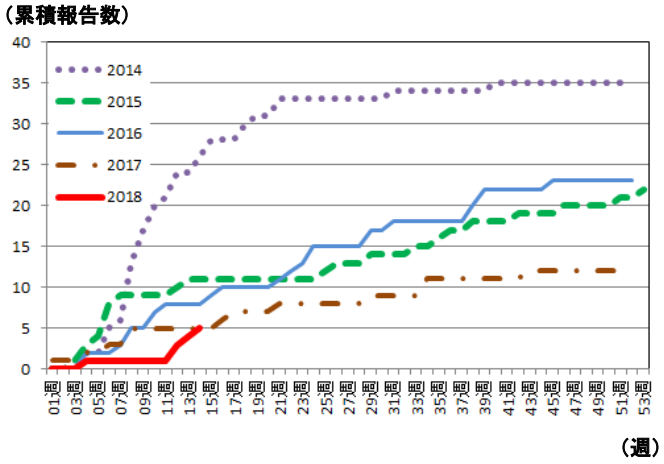


表２．大阪府全数報告数（ 2018(平成 30)年　第 14 週　4 月 2 日－4 月 8 日 ）

＊）注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

３類感染症	報告はありません
４類感染症	**E 型肝炎　1 名**　（中河内ブロック　1 名、府内累計報告数　2 名） **A 型肝炎　1 名**　（大阪市　1 名、府内累計報告数　5 名） **レジオネラ症（ポンティアック熱型）　1 名** （三島ブロック　1 名、府内累計報告数　15 名）
５類感染症 （麻しん、風しんは除く）	**ウイルス性肝炎（B 型）　1 名**　（中河内ブロック　1 名、府内累積報告数　3 名） **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症　3 名** （北河内ブロック　1 名、堺市　1 名、大阪市　1 名、府内累積報告数　30 名） **梅毒　8 名**　（中河内ブロック　2 名、堺市　1 名、大阪市　5 名、府内累積報告数　267 名） **百日咳　8 名**　（豊能ブロック　4 名、三島ブロック　1 名、南河内ブロック　1 名、泉州ブロック　1 名、大阪市　1 名、府内累積報告数　60 名）
結核 （2018 年 1 月分）	**結核　新登録患者数：139 名**　（内　肺・喀痰塗抹陽性　54 名） （府内累積報告数　139 名、内　肺・喀痰塗抹陽性　54 名）
麻しん、風しん	報告はありません

（2018 年 4 月 10 日 集計分）